

タイトル：2025年度 教育セミナー（第21回）

日時：2025年9月18日（木）～21日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

「中央アジア民族・共和国境界画定におけるカラカルパク自治州形成：議論の展開と他民族エリートの包摂」

矢崎未来（東京外国語大学博士前期課程2年）

昨年度に引き続き2回目の参加となったが、今回は前回の感想に記した「来年度は発表を行う」という目標を無事達成することができた。また、昨年度と同様に他の受講生や先生がたと交流を深めることもでき、日頃少人数の授業にしか参加していない私自身にとっては新鮮かつ刺激的な雰囲気の中での4日間となった。

発表に際しては、その準備段階や発表と質疑応答を通して、さまざまな貴重な気づきを得た。特に、自分自身と専門が異なるがゆえの質疑、例えば研究の位置付けについての質問や質問者の専門と絡めた上での疑問などは、普段の研究発表では考えが及ばない点について意識するきっかけともなり、非常に有意義な時間となった。また発表終了後にも先生がたや受講生の方からフィードバックをいただき、改めて自身の研究の方向性や新規性を見直すきっかけとなった。特に中央アジアを専門とする宇山先生や野田先生からいただいたフィードバックは、今後修論を執筆するにあたり、今回の発表を論文として形にする上で大変参考になるものだった。

また、他の受講生の方々の発表も大変興味深いものばかりだった。昨年度は私が専門とする地域である中央アジアあるいは中央ユーラシアに関連した発表がなく少々寂しい思いをしたが、この地域をフィールドとした発表がいくつかあったため、自身の研究や現地経験に引きつけつつ発表を楽しむことができた。これら以外の発表についても、私自身のようにそれぞれの地域やテーマに親しみがない聴衆でも理解しやすいように構成されており、多くのことがらについて知見を深めることができた。

これらに加えて、AA 研所員の方々や外部講師の先生がたの講義も心惹かれるものばかりだった。担当される先生によって、これまでの研究生活の長期的な振り返りや最近注目されている事象にかんするもの、あるいはそれぞれ専門とされる地域や分野の概説など、講義の内容もさまざまであり、4日間を通して全く退屈することのない時間を過ごすことができた。

2024年度の教育セミナーに参加してから1年の間、方法論やディシプリンに始まり個別の事象に至るまで、さまざまな場面でセミナーを通して得た知見や気づきを活用する機会があった。今年も昨年と同様、本セミナーを十分に活用して自身の研究を発展させていきたい。

最後に、このような貴重かつ有意義な機会を提供して下さったことに対し、教育セミナーに携わって下さった先生がた、千葉さまそして受講生の方々に心より感謝申し上げます。